

日本大学 生物資源科学部

校友会会報

2016(平成28年) 第69号



3月 桜水会会員 相澤 實 (学部内アイザワ写真館)



6月 生命化学科2年 外山 結恵



10月 食品ビジネス学科3年 難波 亜美



2月 生命化学科3年 藤澤 望



《目

学部長挨拶、会長挨拶	2
平成28年度総会・懇親会	3
平成27年度校友会会計決算書	4
平成28年度校友会会計予算書	5
校友会だより(あすなろ会、桜水会)	6
校友会だより(FT会、拓友会)	7
トピックス(福島親子キャンプ、新校舎完成)	8
落語研究会創立50周年記念集会、平成28年度表彰	9
カッター部OB会総会	10
富獄会(生命農学科)	11
紫友会(生命化学科)	12
角笛会(獣医学科)	13

次》

満喜葉会(動物資源科学科)	14
いもづる会(食品ビジネス学科)	15
あすなろ会(森林資源科学科)	16
桜水会(海洋生物資源科学科)	17
工学会(生物環境工学科)	18
FT会(食品生命学科)	19
拓友会(国際地域開発学科)	20
応用生物科学科校友会(応用生物科学科)	21
短期大学部湘南校友会(短期大学部生物資源学科)	22
支部だより(宮城県支部、山形県支部、高知県支部)	23
支部だより(神奈川県支部)	24
校友会からのお知らせ	24

「生物資源科学部の未来に向けて」

日本大学生物資源科学部 学部長 大矢 祐治

このたび、多くの教職員の皆様方のご支援・ご支持をいただき、学部長を拝命いたしました。昨年12月14日の就任以来はや8か月が経過いたしました。この間皆様のご支援・ご支持に対する重責を果たすべく、微力ながら学部と大学院、併設の鶴ヶ丘高等学校、藤沢高等学校、藤沢中学校、藤沢小学校の更なる発展のために全力で校務にあたってまいりました。

わたくしどもの学部には長い歴史と伝統があり、教職員のご尽力のもとこれまでに安定した組織が構築されております。最近では、学部創設60周年記念事業の一環として建設を進めてまいりました新1号館に加えて新2号館も完成し、本年4月より全面活用を開始いたしました。この校舎には、学生の主体的な学習を支援するアクティブラーニングスタジオを設置し、より効果的に学生の成長を促すことができるようになりま

した。研究面では、国の科学研究費補助金などの外部研究費の獲得において、本学部はトップクラスの実績を上げております。すでに多くの質の高い研究が実施され、その先端的な研究は一般社会から注目されることも多くなりました。学生はこれらの先端的な研究に触れることでモチベーションを高め、多様な分野に目を向ける契機にもなっております。

18歳人口の減少により、大学入学者が顕著に減少する『2018年問題』など、大学を取り巻く状況はますます厳しくなっております。私たちは、諸先輩が築かれたこれまでの実績を基盤に、学部の更なる活性化を図るための新しい教育・研究組織の構築を行い、今後は『質の向上』に邁進し、社会で活躍する優秀な人材の育成に努めます。受験生から選ばれ続ける学部づくりに加えて、在校生がさらに充実した学園生活を実現できるよう、教職員が一丸となって取り



組んでまいります。校友の皆様におかれましても母校の発展のために、引き続き温かいご支援、ご指導を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

藤桜祭などの折には、緑豊かで充実したキャンパスをぜひご覧いただきたく、学部にお越しくださいますよう心よりお待ち申し上げます。

末筆ではありますが、校友の皆様の益々のご健康、ご発展を祈念しております。

「ご挨拶」

日本大学生物資源科学部校友会 会長 内田 俊太郎

私が日本大学農獣医学部に在籍していた昭和40年代の学部名に由来する教育と研究内容のポリシーについて私見をまとめてみました。

農は農学を表した字ですので、その語源について少し触れてみたいと思います。

漢字は中国で生まれた表意文字で、その後日本に伝来しました。

日本ではほとんどの漢字に中国風の音読みと日本風の訓読みがあります。

例えば、
空(くう・そら)
水(すい・みず)
山(さん・やま)

なかには音読みが無い漢字もあり、そのひとつが農です。

辞書には「のう、の、どう」といった読み方しかありません。

農と言う字の上「曲」は森・林を表し、下の「辰」は土を掘る道具の形状をし

めしていると言われてます。

農は人類が生存していくうえでどれだけ大切かを示す重い言葉です。

それでは生物資源科学部における生物とは何かを考えると、動物・植物・菌類・古細菌・真正細菌などを総称して生物と言います。

地球上全ての生物の共通先祖があり、その子孫が増殖し複製するにつれ遺伝子に様々な変異が生じ、進化がもたされたと考えられています。

その結果、バクテリアからヒトにいたるまで生物多様性が生まれ、地球環境に依存しながら、相互に複雑な関係で結ばれる生物圏を形成するに至っています。

その数、100数十万種以上で動物も100万種以上、植物は菌類・藻類を含め50万種以上と言われてます。

生物が地球環境に様々な変化をもたらしている事を考えると、生物資源科学



部における教育と研究は人類の未来への影響とその存亡に深く関わっていることが容易に理解できるどころです。

このように人類の更なる幸福と地球環境に直結する分野を学んだ私達は、農獣医学部・生物資源科学部の卒業生としての誇りをもち、「母校への帰属意識の醸成と母校への支援」を柱に今後も活発な活動をして参ります。

皆様のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

平成28年度日本大学生物資源科学部校友会通常総会・懇親会報告

平成28年度の通常総会及び懇親会は、平成28年7月9日(土)に開催しました。

通常総会は、日本大学生物資源科学部 NU ホール A において午後2時から85名の会員に出席をいただき、津曲幹事長の開会の辞、司会進行で開始しました。

議長に紫友会浜野会長が就任し、議事録署名人に「あすなる会の阿部会員」及び「拓友会の小谷田会員」が満場一致で選出されました。

校友会執行部の紹介後、議事に入り、まず、報告事項として平成28年度の会長賞受賞者3名の報告がありました。

続いて審議事項に移り執行部提案の次の6議案を審議した結果、2の会則

の一部改正(案)は出席者の3分の2以上(70名)の賛成、他は全て賛成多数で承認されました。

- 1 分会選出幹事の交代(案)
- 2 会則の一部改正(案)
- 3 平成27年度事業報告
- 4 平成27年度会計決算報告
- 5 平成28年度事業計画(案)
- 6 平成28年度会計予算(案)

審議終了後、浜野議長は議長を退任、津曲幹事長が閉会宣言し、平成28年度通常総会は、午後3時13分閉会しました。

懇親会は、同日午後4時から学部食堂棟3階において大塚日本大学学長、大矢生物資源科学部長を始め、江黒日本大学校友会本部事務局次長及び

他学部校友会の来賓の方々並びに学部教職員及び会員の方々総勢163名のご出席をいただき、近藤副会長の開会の辞の後、津曲幹事長の司会進行で開始しました。

校歌斉唱、内田校友会会長挨拶、大塚日本大学学長及び大矢生物資源科学部長の挨拶、平成28年度会長賞の表彰式と続き、河本生物資源科学部事務局長の乾杯の音頭で懇親会は始まりました。

例年どおり、各分会毎にテーブル席を設け旧交を温めていただきました。

約2時間の懇親会の時間もあっという間に過ぎ来年の再会を約束し、津曲幹事長の閉会の辞で午後5時55分、平成28年度懇親会は終了しました。



通常総会



通常総会



懇親会



懇親会



平成27年度 日本大学生物資源科学部校友会 会計決算書 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

日本大学生物資源科学部校友会

(収入の部)

(金額単位：円)

科 目	27年度予算(A)	27年度決算(B)	差 異(A - B)	摘 要
1. 前年度繰越金	18,738,175	18,738,175	0	現 84,782円、預 18,653,393円 (普 674,042円、定 17,979,351円)
2. 会 費 収 入	45,003,000	44,646,000	357,000	
1) 準会員還付金収入	44,556,000	44,166,000	390,000	7,361名 × 6千円
2) 正会員還付金収入	447,000	480,000	▲ 33,000	160名 × 3千円
3. 寄 附 金 収 入	0	0	0	
4. 祝 金 等 収 入	1,200,000	1,289,000	▲ 89,000	総会・懇親会等の会費及び祝金
5. 雑 収 入	10,000	73,403	▲ 63,403	含む預金利息4,835円
当年度収入合計	46,213,000	46,008,403	204,597	
収 入 合 計	64,951,175	64,746,578	204,597	

(支出の部)

(金額単位：円)

科 目	27年度予算(A)	27年度決算(B)	差 異(A - B)	摘 要
1. 分 会 交 付 金	21,781,000	21,591,000	190,000	初回還付金43,182円 × 1/2
2. 経 常 費	12,860,000	12,274,143	585,857	
1) 人 件 費	5,000,000	4,819,430	180,570	事務局勤務者に係る給与
2) 本 部 分 担 金	470,000	470,000	0	日本大学本部校友会に対する支部会費及び役員会費
3) 事 務 局 運 営 費	1,200,000	1,320,289	▲120,289	コピー機リース料、その他事務消耗品等に係る諸経費
4) 通 信 費	2,600,000	2,487,169	112,831	分会の会報発送費補助、県支部等への資料発送費等
5) 会 合 費	1,000,000	639,939	360,061	幹事会、執行役員会、各種会合(5委員会除く)に係る費用等
6) 交 際 費	1,200,000	1,449,840	▲249,840	分会、都道府県支部、他学部校友会総会等に係る祝金等
7) 旅 費 交 通 費	1,300,000	1,012,900	287,100	出張旅費、運営補助費(5委員会除く)等
8) 支 払 手 数 料	90,000	74,576	15,424	銀行振込手数料、残高証明書発行手数料
3. 事 業 費	18,830,000	13,617,146	5,212,854	
1) 総 会 費	2,300,000	1,658,960	641,040	総会・懇親会開催経費等
2) 広 報 費	3,350,000	1,869,400	1,480,600	会報印刷、ホームページ管理費用等
3) 総務委員会運営費	50,000	10,000	40,000	委員会開催経費及び運営補助費
4) 財務委員会運営費	50,000	16,000	34,000	委員会開催経費及び運営補助費
5) 企画委員会運営費	50,000	16,000	34,000	委員会開催経費及び運営補助費
6) 広報委員会運営費	130,000	69,564	60,436	委員会、会報編集委員会開催経費及び運営補助費
7) 組織委員会運営費	50,000	39,278	10,722	委員会開催経費及び運営補助費
8) 記念事業補助費	200,000	100,000	100,000	分会の記念式典開催に伴う補助
9) 準会員対応費	10,000,000	8,658,944	1,341,056	学部に対する寄付及び藤桜祭、スポーツフェスタ等への支援
10) 表彰記念品費	150,000	132,000	18,000	総会・懇親会での表彰に伴う記念品等経費
11) スポーツ振興対応費	200,000	100,000	100,000	日本大学スポーツ振興関連等費用
12) 箱根駅伝対応費	200,000	114,000	86,000	箱根駅伝の応援等に係る費用
13) 東日本大震災対応費	1,000,000	500,000	500,000	震災支援に係る関連費用
14) 組織拡充計画費	1,000,000	233,000	767,000	都道府県支部運営資金の一部補助等
15) 日本大学創立130周年募金	100,000	100,000	0	日本大学創立130周年記念事業募金 (H34年度まで10ヵ年)
4. 予 備 費	6,000,000	0	6,000,000	
当年度支出合計	59,471,000	47,482,289	11,988,711	
次年度繰越金	5,480,175	17,264,289		現 34,011円、預17,230,278円 (普4,230,278円、定13,000,000円)
支 出 合 計	64,951,175	64,746,578	204,597	



平成28年度 日本大学生物資源科学部校友会 会計予算書

(自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)

日本大学生物資源科学部校友会

(収入の部)

(金額単位：円)

科 目	28年度予算(案)(A)	27年度予算	27年度決算(B)	差 異 (A - B)	摘 要
1. 前年度繰越金	17,264,289	18,738,175	18,738,175	▲ 1,473,886	現 34,011円、預 17,230,278円(普 4,230,278円、定 13,000,000円)
2. 会 費 収 入	44,472,000	45,003,000	44,646,000	▲ 174,000	
1) 準会員還付金収入	43,992,000	44,556,000	44,166,000	▲ 174,000	7,332名 × 6千円
2) 正会員還付金収入	480,000	447,000	480,000	0	160名 × 3千円
3. 寄 附 金 収 入	0	0	0	0	
4. 祝 金 等 収 入	1,200,000	1,200,000	1,289,000	▲ 98,000	総会・懇親会の会費及び祝金その他
5. 雑 収 入	10,000	10,000	73,403	26,597	預金利息、親会会費収入
当年度収入合計	45,772,000	46,213,000	46,008,403	▲ 236,403	
収 入 合 計	63,036,289	64,951,175	64,746,578	▲ 1,710,289	

(支出の部)

(金額単位：円)

科 目	28年度予算(案)(A)	27年度予算	27年度決算(B)	差 異 (A - B)	摘 要
1. 分 会 交 付 金	21,480,000	21,781,000	21,591,000	▲ 111,000	初回還付金42,960円 × 1/2
2. 経 常 費	13,260,000	12,860,000	12,274,143	985,857	
1) 人 件 費	5,000,000	5,000,000	4,819,430	180,570	事務局勤務者に係る給与
2) 本 部 分 担 金	470,000	470,000	470,000	0	日本大学本部校友会に対する支部会費及び役員会費
3) 事 務 局 運 営 費	1,300,000	1,200,000	1,320,289	▲ 20,289	コピー機リース料、その他事務消耗品等に係る諸経費
4) 通 信 費	2,600,000	2,600,000	2,487,169	112,831	切手・葉書代、都道府県支部等への資料発送費等
5) 会 合 費	1,000,000	1,000,000	639,939	360,061	幹事会、執行役員会、各種会合(5委員会除く)に係る費用等
6) 交 際 費	1,500,000	1,200,000	1,449,840	50,160	分会、都道府県支部、他学部校友会総会等に係る祝金等
7) 旅 費 交 通 費	1,300,000	1,300,000	1,012,900	287,100	出張旅費、運営補助費(5委員会除く)等
8) 支 払 手 数 料	90,000	90,000	74,576	15,424	銀行振込手数料、残高証明書発行手数料
3. 事 業 費	19,680,000	18,830,000	13,617,146	6,062,854	
1) 総 会 費	2,000,000	2,300,000	1,658,960	341,040	総会・懇親会開催経費等
2) 広 報 費	2,500,000	3,350,000	1,869,400	630,600	会報印刷、パンフレット印刷、ホームページ管理費用等
3) 総務委員会運営費	50,000	50,000	10,000	40,000	委員会開催経費及び運営補助費
4) 財務委員会運営費	50,000	50,000	16,000	34,000	委員会開催経費及び運営補助費
5) 企画委員会運営費	50,000	50,000	16,000	34,000	委員会開催経費及び運営補助費
6) 広報委員会運営費	130,000	130,000	69,564	60,436	委員会、会報編集委員会開催経費及び運営補助費
7) 組織委員会運営費	150,000	50,000	39,278	110,722	委員会開催経費及び運営補助費
8) 記念事業補助費	200,000	200,000	100,000	100,000	学科及び支部の記念式典開催に伴う補助
9) 準会員対応費	10,000,000	10,000,000	8,658,944	1,341,056	学部に対する寄付及び藤桜祭、スポーツフェスタ等への支援
10) 表彰記念品費	150,000	150,000	132,000	18,000	総会・懇親会での表彰に伴う記念品等経費
11) スポーツ振興対応費	150,000	200,000	100,000	50,000	日本大学スポーツ振興関連等費用
12) 箱根駅伝対応費	150,000	200,000	114,000	36,000	箱根駅伝予選会及び本選の応援等に係る費用
13) 東日本大震災対応費	0	1,000,000	500,000	▲ 500,000	震災支援に係る関連費用(平成27年度で廃止)
14) 組織拡充計画費	1,000,000	1,000,000	233,000	767,000	都道府県支部運営資金の一部補助等
15) 日本大学創立130周年募金	100,000	100,000	100,000	0	日本大学創立130周年記念事業募金(H34年度まで10ヵ年)
16) 歴史展示室開設資金	2,000,000	—	—	2,000,000	学部創立60周年記念事業に係る展示室の開設準備費用
17) ホームカミングデー経費	1,000,000	—	—	1,000,000	ホームカミングデー開催経費
4. 予 備 費	1,000,000	6,000,000	0	1,000,000	
当年度支出合計	55,420,000	59,471,000	47,482,289	7,937,711	
次年度繰越金	7,616,289	5,480,175	17,264,289		
支 出 合 計	63,036,289	64,951,175	64,746,578	▲ 1,710,289	

校友だより

ダイナミックな仕事

森林資源科学科
平成23年卒業 森 千夏
国土防災技術株式会社



緑化工に使う植物採取中(右が私)

私は、大学で山の崩壊地から土砂がどのくらい流出するのか、特に降雨との関係について研究していました。卒業後も、大学で学んだことが生かせる仕事がしたいと考え、国土防災技術株式会社に入社しました。

弊社は、地すべりをはじめとする山地災害の調査、設計、工事に携わっています。私はその中でも「緑化」に特化した部署に所属しています。森林資源科学科出身ですが、恥ずかしながら植物には詳しくないので最初は戸惑いましたが、今では北は北海道から、南は熊本まで全国の現場を渡り歩きながら仕事をしています。仕事の内容は基本的には緑化の計画・設計ですが、最近では開発、営業、工事など緑化にかかわる様々なことにかかわらせてもらっています。

崩壊地での緑化の目的は大きく分けて2つあります。1つは、崩壊地の地表面を保護し、降雨などにより侵食が発生しないようにすることです。もう1つは崩壊地を元の状態に戻す手助けをすることです。私の仕事では、元の状態とは森林を指すことが多いのですが、良い方法で早く森林に戻すことにはどのような方法が適しているのか、それを考えることはダイナミックで非常に面白い仕事です。

このような仕事は山の中を歩き回っ

たりすることが多いと思われるのですが、実は車で行けるような現場もあります。ですが、最近は1日歩き続ける現場もあり、体力的にも厳しいです。簡単な仕事ではありませんが、これからも知識と体力も鍛えつつ取り組んでいきたいです。



藪の中を踏査中



会社の人たちと川下り大会に出場

夢はカレイの研究者

平成22年海洋生物資源科学科卒業
平成24年大学院博士前期課程修了
野口 俊輔
京都府農林水産技術センター海洋センター



私は、京都府の水産試験場である海洋センターに勤務しています。そこで、主に底曳網漁業や釣延縄漁業に関する調査、研究を行っています。

私は小さいころから自然や生き物が

大好きで、特に多種多様な海の魚に興味を持っていました。様々な魚の中でも、特にカレイが一番のお気に入りでした。一般的には地味で目立たないイメージの魚ですが、小学生の時、七夕の短冊に、将来カレイの研究者になりたいと書いたことを覚えています。そんな魚好きの性格は大学生になるまで変わらず、本校の海洋生物資源科学科に入学しました。その後、大学院に進学し研究に没頭する日々が続きました。水産関係の研究職は全国的にも募集が少なく、狭き門でしたが、縁あって現在の職場に就職することができました。

現在の主な業務内容は、京都府の海洋調査船「平安丸」による、ズワイガニやカレイ類などの採集調査、市場などでの漁獲物調査、漁業者に対する聞き取り調査などです。これらの調査結果をもとに、漁業や水産資源の状況を分析し、漁業者の収益向上、あるいは水産資源の持続的な利用に向けた有益な情報を提供していきます。また、年に数回、他県や国の研究機関が集まる会議に出席し、情報交換や資源管理の方向性の検討を行っています。

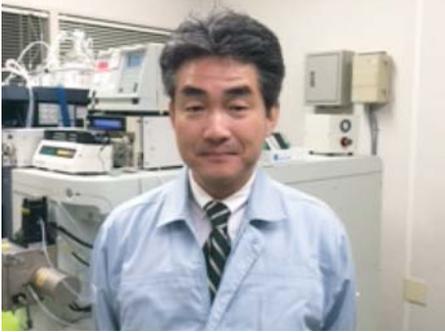
当所のような都道府県の研究機関は、その地域に住む市民へ研究成果を還元することが大きな目的の一つです。市民目線での研究が大前提ですが、小さいころに夢見ていたカレイの研究に携われることができうれしく思っています。研究者としてはまだまだ未熟ですが、日々研鑽を積み、京都から日本の水産業を支えていきたいと思っています。



調査で採集されたアカガレイ

人との出会いは大切に

食品工学科 (現: 食品生命学科)
昭和 61 年卒業 衣笠 仁
株式会社 伊藤園



衣笠 仁氏 実験室にて

私は卒業後、「お〜いお茶」でお馴染みの株式会社伊藤園に研究職として入社しました。入社当時は、会社も小さく研究室もなかったので「ゼロ」からのスタートでした。何もわからず悩んでいた時に声をかけてくれたのが、農獣医学部食品工学科1期卒業の先輩でした。私の入社もご存知で、その先輩からの助言として、「これから伊藤園は緑茶飲料を世に出すから緑茶飲料の研究をしなさい」と言われ、茶業試験場(現在農研機構野菜茶業試験場)のお茶研究の第一人者である竹尾忠一博士を紹介されました。そこから20年間、緑茶飲料の研究に従事し、緑茶飲料の殺菌による香气変化メカニズムの解明により、日本缶詰協会逸見賞をいただきました。その後食品の新殺菌技術開発として、2006年から農林水産省食品産業超高压利用技術研究組合に参加し、茶飲料の超高压処理による低温殺菌技術の開発に取り組みました。日本大学生物資源科学部教授(京都大学名誉教授)であった故・林力丸先生の下、茶飲料の低温殺菌技術の開発により、日本清涼飲料研究会奨励賞、日本缶詰協会奨励賞をいただきました。30年目の現在は、微力ながら生物資源科学部の非常勤講師を勤めさせてもらっています。このように私の人生は節目、節目で大学に関わる先輩、先生方に出会い、ご助言やご指導、研究に対する方向性を示して頂きここまで来る事が

できました。これからは大学への恩返しとして、後輩の育成、就職活動の相談、更には、学生たちの人生において岐路に立ったときの道しるべとなるものを示して行ってあげたいと考えております。



お〜いお茶の専用原料茶園



お〜いお茶専用原料茶葉

アフリカの食糧自給に貢献

国際地域開発学科
平成 15 年卒業 栗原 一寿
JICA 専門家

本大学では国際開発と共に作物栽培の基礎を教材・実習を通して学びました。国際協力の仕事を希望していたため、大学卒業後は専門性を身に付けることと、英語の習得を目的にフィリピンのビコール大学修士課程に進学を決めました。しかし、当時大学が留学生受入の体制が整っていなかったため、学生ビザが発行されず入学まで一年かかりました。私の入学したコースは3年間で修士号が取得できるのですが、最終年に50年振りの大台風が町を襲い、論文用に設置していた実験が全て流され、校舎の屋根が吹き飛ばすなど数ヶ月間大学として機能しなくなったことから一年留年しました。結局、修士課程を終えるのに五年を費やしました。し

かし、その間に途上国での考え方、生活、文化などを経験し、日常会話だけでなく農学の専門用語を英語で習得した事は今振り返ると非常に良かったと思います。その後は青年海外協力隊として2009年1月から2年間ウガンダに赴任し陸稲の栽培試験と普及に従事しました。当時のJICA専門家の方達に陸稲栽培について指導して頂いたことが今の仕事に繋がりました。帰国後は2011年5月から半年間の短期専門家としてカメルーンに赴任し、2012年1月からは長期専門家として再度同プロジェクトの業務に4年4カ月間従事しました。業務を通してイネだけでなくプロジェクト運営など国際協力に必要な知識を学びました。8月からカメルーンの稲作プロジェクトの業務に就きますが、今までの経験を活かして、謙虚な姿勢を忘れずに様々な問題に挑戦して行こうと思います。



陸稲農家との写真(ウガンダ)



台風で屋根が崩壊した図書館



カメルーン普及員研修の写真

トピックス

日大で5回目の福島親子キャンプを実施

原発事故で避難生活の続く福島の子を対象に、15年の夏は藤沢市の市民グループ「福島の子どもたちとともに・湘南の会」と共同で、湘南キャンパスの農場研修施設で宿泊しながら、動物とのふれあいやオープンキャンパスなどを楽しんでもらいました。最後のお別れ会でのジャグリング同好会による妙技の披露など、多くの学生が積極

的に参加、協力してくれました。校友会にはご協賛いただきましたことに、感謝申し上げます。

市民の会は夏と春の2回（この夏で9回目）、福島県全体を対象として行っており、16年春も学部の後援をいただき実施しました。今後ともよろしく、お願いいたします。

（生物資源科学部教授 小林信一、糸長浩司）



スイカ割



農場での1コマ

新校舎の完成及び校友会事務局の移転

生物資源科学部創立60周年記念事業の一環として平成24年6月から進められていました新校舎（1号館及び2号館）の建設が完成しました。

1号館は、平成26年7月完成しました。地下1階、地上5階建です。地下は学生ホール、軽食コーナー、売店等があります。1階は、講義室、学生ホール、ATMコーナー等があり、2階から5階までは講義室となっております。

2号館は、平成28年2月完成しました。2階建です。

1階は、講義室、教務課、学生課、入学センター、保健室等があります。2階は、講義室、会議室、研究事務課、学生相談室、学習支援センター、研究支援センター及び校友会事務局があります。

校友会事務局は今年の3月博物館棟2階から移転しました。お出かけの際には、是非お立ち寄りください。お待ちしております。



1号館



2号館

「農獣医学部落語研究会」創立50周年集会 — 笑いで暮らしましょうをテーマに50年 —

1965年、当時農芸化学科（現：生命化学科）金谷邦昭氏（41年卒製薬会社元役員）と農学科（現：生命農学科）糟谷護氏（43年卒現：庭園デザイナー）の二人が落語研究会（通称・落研おちけん）を結成し、部員12名でスタート。農学科農業気象学研究室蒲原務教授に顧問をお願いしました。蒲原先生は、江戸の下町情緒が色濃く残る、日本橋新富町のお生まれ。三味線を聞いて、育った粹人先生は、「粋な芸を磨け」と、当時の赤坂「アマンド」を溜り場にしました。50周年集会は福地（丹野）信子氏（50年卒農芸化学科）と北浦博充氏（53年卒拓殖学科）らが尽力。司会は落研出身で現役のNHKエグゼクティブ・アナウンサー畠山智之氏（56年卒食品工学科）のユーモア溢れる軽妙な司会ぶり、笑いの渦の中でお開きとなりました。

（初代マネージャー浜野光年・農芸化学科卒 記）



銀座ライオンにて

学部校友会 28年度総会で3氏表彰 — 福澤美喜男氏・井上弘明氏・河野英一氏 —

- **福澤美喜男氏**：多年に亘り東京聖栄大学学長・理事長として私学振興の功績により平成二十七年秋の叙勲旭日中授章を受章されました。紫友会出身。
- **井上 弘明氏**：永きに亘り生物資源科学部校友会の役員として本会発展に多大な貢献をされました。富嶽会出身。
- **河野 英一氏**：平成二十二年から平成二十七年まで学部校友会名誉会長として本会発展に多大な貢献をされました。前学部長。



左から内田俊太郎校友会会長、福澤美喜男氏、井上弘明氏、河野英一氏

「カッター部OB会総会の開催」

7月2日(土)カッター部OB会総会を行いました。
カッター部OB会(正式にはOB・OG会と言います)は四年毎に記念に残るような企画で総会を行っており、今年も東京、浅草橋「野田屋」の屋形船で総会を行いました。招待者に丹後 充元顧問、「都」の田川さんと姪の方、「都」は六会駅近くで体連をはじめカッター部も出入りする昼食場所、田川さんは昭和56年、横須賀市馬堀海岸沖で開催された全日本レースで我が校が準優勝した時に応援に来られ、平成9年の全日本レースの優勝時にも祝賀会に出席頂く程のお付き合い、今も折に触れお世話になっている方です。)OBは昭和39年の卒業生から平成28年の卒業生、そして現役学生の主将、副主将の合計29名、九州、広島、岐阜等、全国各地から集まってきました。新旧取り混ぜての懇親会で、年齢差は54歳、カッター部の歴史の長さを感じていただけますでしょうか。船は17時に発船し、隅田川をお台場方面に航行、お台場で停泊し、その後、スカイツリーに近い吾妻橋あたり迄移動し、19時30分には浅草橋に戻りお開き、解散という行程、出船後は暫くエンジン音が響くので事務的な発表は出来ず、お台場近く迄しばし船窓から見える景色を楽しみ、お

台場に入りエンジン音が静かになるとまず、本年亡くなられた39年卒業の會田 晴英氏、昭和40年卒業、本学の元教授でありカッター部顧問を一時期お願いしておりました吉原 喜好先生の御両名のご冥福をお祈りすべく全員が黙祷、その後、決算報告、事業計画、本年度の予算案の承認と進み、懇親会が始まりました。全員名札をぶら下げておりますので卒業年度と名前は分かるのですがエピソードを交え自己紹介をしていよいよ、座が盛り上がっていきます、現役学生は新旧OBの間を挨拶回り、OBから助言、激励を受けておりました。屋形船で船酔いの心配はカッター部員と卒業生の集会ですからその心配は無用です。我がOB会では毎年行われる横浜のカッターレースにも現役部員と合流する等、常に何らかの形で交流をし、日頃の練習や合宿へ密度の濃い指導や助言を行っております。さて総会も終盤になりますと、水上応援歌、校歌斉唱、締めくくりの挨拶となり船内ではお開きとなりました。

写真は屋形船での総会風景です。

記：原 博隆(昭和44年水産学科卒)



カッター部OB会総会

富嶽会

生命農学科

連絡先：園芸科学研究室
0466-84-3508 事務局長 立石 亮
E-mail：tateishi@brs.nihon-u.ac.jp

植物資源科学科から生命農学科に学科名称が変わり2年目となりました。植物生命科学と農学の融合を目指した教育・研究活動を行い、他大学の同一分野のなかで「選ばれる大学」になるよう教職員一同努力しているところです。今年度は137名の新生が入学しました。学科名称の変更に伴い本学科を受験する高校生の数も非常に多く推移しています。

さて、学科教員の退職および新規採用、昇格が行われましたのでご報告致します。永年にわたって学科の発展のためにご尽力いただきました園芸科学研究室（旧果樹・蔬菜園芸学研究室）井上弘明教授、遺伝育種科学研究室（旧遺伝育種学研究室）野村和成教授、作物科学研究室（旧作物学研究室）鳥越洋一教授が平成28年3月31日をもちまして退職されました。井上先生は昭和46年から45年間にわたりアボカドなどの熱帯果樹を中心とした園芸学の教育・研究活動に携われ、多くの優れた卒業生を輩出されました。野村先生は昭和53年から38年間にわたりイネのイモチ病抵抗性およびダイコンの低温要求性等を中心とした遺伝・育種学の教育・研究に多大な貢献をされました。また、鳥越先生は平成22年から6年間にわたりイネの高登熟性の形態的・生理的特性の解明に関する研究と教育に尽力されました。井上先生と野村先生におかれては、在任中農学科から植物資源科学科へ、植物資源科学科から生命農学科への学科名称変更とカリキュラム改正をはじめとした学科の様々な課題解決の先頭に立たれ、また当時は本学部において海外大学との学生交流がほとんど行われていなかった17年前から台湾国立中興大学との相互学生研修制度の立ち上げと継続的な実施など、本

学科の発展に尽力されました。また、学部執行部に在席されるなど、学科だけではなく学部運営にも多大なお力添えを賜りました。ここに改めて感謝申し上げます。

退職された先生方にかわり、遺伝育種科学研究室に山田昌彦教授と奈島賢児助教が平成28年4月1日に着任されました。山田教授は農林水産省果樹研究所において長年にわたり果樹の品種改良に従事され、カキの「太秋」やブドウの「シャインマスカット」などを育成されています。平成27年には園芸学会学会賞を平成28年には園芸学会功労賞を受賞されています。奈島助教は名古屋大学大学院生命農学研究科を修了された後、果樹研究所にて主にパイナップルの分子育種に関する研究に携わられてこられました。遺伝育種科学研究室は穴戸准教授も含めて3名体制となりました。作物科学研究室は磯部勝孝先生が教授に昇格され、肥後助教と2名体制となりました。緑地環境科学研究室の大澤啓志先生が教授に、植物医科学研究室の井村喜之先生が准教授にそれぞれ昇格されました。また、花の科学研究所の腰岡政二教授が学部次長に任命されました。

台湾国立中興大学との相互学生研修制度に基づき、本年度も中興大学から15名の学生が来校されました。7月6日から7月19日の14日間にわたり、生命農学科における講義、実験、フィールド実習、日本における農業現場の視察と文化体験などが行われました。期間中は実験やフィールド実習、

農業現場の視察などに在校生が付き添うことにより、英語によるコミュニケーションが盛んに行われ在校生にとっても非常に有意義な経験となりました。従来、年次を変えて受け入れと訪問が相互に行われていましたが、最近は同じ年に受け入れと訪問を行うようになっています。そのため、日本で仲良くなった学生と台湾で再会できるため、学生同士の交流がより一層深くなっているのが特徴です。本学科の中興大学への訪問は腰岡教授、立石准教授、栗林実習助手が15名の学生を引率して8月31日から9月13日の日程で実施されます。

事務局より

庶務理事は岩野秀俊教授、事務局長は立石 亮准教授、庶務係は肥後昌男助教が担当することとなりました。会員各位の近況や住所変更などがございましたらお知らせください。

（窪田 聡）



山田 昌彦 教授



奈島 賢児 助教



台湾国立中興大学との交流会

紫友会

生命化学科

連絡先：発酵化学研究室
0466-84-3945 事務局長 荻原 淳
E-mail: j-ogihara@brs.nihon-u.ac.jp

平成28年度 紫友会 一活動経過報告一

【就活支援セミナー開催】

平成27年12月5日(土) 本学部1号館111講義室にて生命化学科3年次学生を対象に就活支援セミナーを開催いたしました。本セミナーは近年卒業し、各業種でご活躍の紫友会会員の先輩方(13名)を座談会形式で一人一人囲む形で行われました。会に先立って、前田敏幸紫友会副会長から学生に対して「就活前にぜひ考えてほしいこと」についてお話いただきました。在学生からは就職活動の体験や職種などについて、より学生が必要としている具体的な質問などが多数寄せられ、盛会のうち終了しました。



就活支援セミナーの様子

【理事会開催】

定例の理事会は本年7月2日14時より1号館121講義室で開催されました。浜野会長の挨拶から始まり、平成27年度事業・決算報告が事務局よりなされ承認されました。また、監事より会計監査結果についての報告がなされ承認されました。次に平成28年度の事業計画・予算案等が審議され、満場一致で承認されました。

【平成28年度 第23回紫友会奨学生決定】

理事会の同日に奨学生選考委員会より厳正に選考された以下9名の奨

学生が決定しました。2年次；木原正峰、高橋 舞、木村 真子3年次；津田 紘伸、諏訪 絢風、及川 梨佳子4年次；濱田 彩、青山 結郁、今野 勇希

【平成28年度 第3回紫友会特別賞】

同日に紫友会特別賞選考委員会により厳正に選考された以下、2名・1団体に特別賞を授与することに決定しました。

奥江沙知子(学年 博士前期課程2年；ICoFF2015 Poster Award「International Congress on Food Factor」およびJapanese Society for Food Factor, Young Investigator Award「JSoFF YIA for ICoFF2015」を受賞)、松風成美(博士前期課程2年；ICoFF2015 Poster Awardを受賞)、生命化学学会(生命化学科学生による学術研究会；マジごはん計画(農林水産省承認)の実施による学内における食育活動と啓蒙活動の取り組み)

生命化学科の近況

【在校生】

平成27年9月26日に紫友会杯争奪研究室対抗ソフトボール大会が開催されました。発酵化学研究室が優勝しました。表彰式・懇親会には紫友会役員の皆様にもご同席いただき懇親を深めることが出来ました。平成28年3月25日に本学部アリーナで平成27年度学位伝達式が開催され、生命化学科卒業生140名が社会へと元気よく羽ばたきました。同年4月16日に会員・準会員支援活動の一環として生命化学科1年次学生を対象に新入生セミナーを行いました。本年度は新入生133名(男子75名、女子58名)を迎え入れ、本学科OB/OGからのお祝いの言葉と輝かしい将来についてのお話をいただきました。セミナーは盛況のうちに終わり、新入生歓迎会の開催へと相成りました。現在、当学科には総計584名(男子300名、女子284名)の学生が在籍しております。



平成27年度 紫友会杯ソフトボール大会優勝研究室(発酵化学研究室)

【学科教員動向】

平成28年4月1日付けで増澤依助手(栄養生理化学研究室)が着任されました。増澤先生は本学部海洋生物資源科学科を卒業後、東京大学大学院で学位を取得され、昨年度まで明治大学で研究員としてご活躍されておりました。本学部・本学科での益々のご活躍を期待しております。また、赤尾真助教が専任講師に昇格されました。平成27年度長期海外派遣研究員として小林孝行助教(土壌圏科学研究室)が平成28年3月より一年間、アメリカ アリゾナ大学へ出張しております。



増澤 依 助手

【年次総会】

本年11月19日(土)；紫友会年次総会(1号館121講義室)および懇親会(食堂棟3階)を執り行う予定です。60周年記念棟(1号館、2号館)のご紹介などを予定しております。新しい湘南キャンパスのご見学や研究室のご訪問並びに総会へのご参加をお願い申し上げます。

紫友会事務局より

今後とも皆様のご支援をお願い申し上げます。紫友会会員の皆様の近況や同期会等のご様子を事務局までお知らせ下さい。紫友会のホームページは<http://www.nihon-u-shiyukai.jp>からご覧いただけます。また、インターネット上で「紫友会」と検索してください。同ウェブ上で連絡先等変更の手続きができますのでご活用ください。

(赤尾 真)

角 笛 会

獣医学科

連絡先：獣医生理学研究室
0466-84-3633 事務局長 鯉江 洋
E-mail: koie.hiroshi@nihon-u.ac.jp

平成 28 年度 日本大学獣医学会・ 角笛会合同大会の開催

平成 28 年 6 月 25 日(土)、日本大学生物資源科学部 1 号館 第 131 講義室において平成 28 年度角笛会総会および第 54 回日本大学獣医学会が開催され、多くの会員が集まりました。日本大学獣医学会では渋谷久担当学会長のもと、口頭発表による 10 題の一般講演、次いで教育講演として「今、知っておくべき猫の医学」と題し、五味浩司先生(獣医解剖学研究室)、入交眞巳先生(日獣大・臨床獣医学部門・治療学分野 I)、永田雅彦先生(どうぶつの総合病院)、難波信一先生(マール動物医療センター)、枝村一弥先生(獣医外科学研究室)、亘敏広先生(獣医内科学研究室)により行われました。本年度も一般講演と教育講演の時間を大幅に確保したプログラムとなり、会員 55 名、学生・ANMEC 研修医 141 名、その他 8 名と 200 名を超える方にご参加いただき、また会場からの熱心な質問も多く、内容の充実した学会となりました。

角笛会総会では中川秀樹会長より挨拶があり、北沢浩一議長(昭和 54 年卒)の進行で審議が行われました。総会に先立ち、諸先生方のご訃報に際し、黙祷が行われました。平成 27 年度の事業活動および会計収支報告があり、承認されました。また平成 28 年度の事業活動および予算案が審議され、満場一致で承認されました。角笛会の発展に貢献した角笛会功労者として富樫稔氏(山形県)、田中義朗氏(群馬県)、太田靖穂氏(新潟県)、田川博稔(熊本県)の 4 人に賞状と記念品が授与されました。また日本大学動物病院の獣医臨床技術の向上と臨床獣医学研究の活性化を目的とした ANMEC 研究助成金は、大野真美子氏(研究課題: フィブロスキャンを

用いた牛の肝臓の硬度および脂肪沈着量の測定に関する研究)が授賞しました。総会后、食堂棟 3 階にて開催された懇親会には他学科同僚校友会の来賓、角笛会校友、大学教員そして学部生(準会員)など多数の参加者が集まりました。鳥海弘副会長(昭和 50 年卒)の乾杯の音頭で開幕し、にぎやかに談笑するうちに時間が流れ、盛会裏に終了しました。



第 54 回日本大学獣医学会 教育講演



平成 28 年度角笛会功労者の授与式

平成 28 年度 角笛会主催 獣医師採用病院説明会の開催

平成 28 年 6 月 25 日(土)(平成 28 年度日本大学獣医学会・角笛会合同大会と同日)、日本大学生物資源科学部 1 号館 第 111、112、113 講義室において、角笛会準会員である獣医学科学生のための獣医師採用病院説明会が開催されました。説明会の趣旨・目的に賛同し、ご参加いただいた動物病院は 24 施設で、学生は 5、6 年生を中心に 132 名が参加しました。就職活動としては勿論のこと、低学年の動物病院見学や実習などさまざまな情報交換が行われ、動物病院、学生の双方から有意義なイベントとなったと好評を得ました。来年度も開催を予定しておりますので、多くのご参加をお待ちしております。

平成 28 年度角笛会主催
獣医師採用病院説明会の様子

第 14 回日本大学医療系同窓・ 校友学術講演会の開催

第 14 回日本大学医療系同窓・校友(医学部同窓会、歯学部同窓会、松戸歯学部同窓会、薬学部校友会、獣医学科校友会・角笛会)学術講演会は平成 27 年 9 月 26 日(土)松戸歯学部担当で「家族」をテーマにシンポジウム形式で開催され、参加者との意見交換が活発に行われました。角笛会からは中川秀樹会長(昭和 40 年卒)が「動物も家族と考える文化の背景 - その一考察 -」と題して発表しました。本年度の第 15 回講演会は 9 月 24 日(土)角笛会担当で「教育について」をテーマに開催されます。角笛会からは獣医学科主任の杉谷博士先生(昭和 47 年卒)が「獣医学教育はグローバル化を目指せるか」と題して発表する予定です。



第14回日本大学医療系同窓・校友学術講演会

人事

本年 3 月をもって河合茉莉子実習助手(家畜病院)、小森千聖実習助手(家畜病院)が退職されました。本年 4 月に、菅野信之専任講師(獣医内科学研究室)が採用されました。滝山直昭先生(獣医内科学研究室)、齋藤光芳先生(獣医薬理学研究室)が専任講師に、佐藤真伍先生(獣医公衆衛生学研究室)が助教に昇格されました。

(岡林 堅)

満喜葉会

動物資源科学科

連絡先：畜産マーケティング研究室
0466-84-3648 事務局長 小泉 聖一
E-mail：koizumi.seiichi@nihon-u.ac.jp

平成28年度満喜葉会 —活動経過報告—

【役員会の開催】

定例の役員会は、本年5月14日(土)午後2時より、博物館2階第1会議室で開催されました。役員会は山本捷会長の挨拶から始まり、平成27年度事業・決算報告が事務局よりなされ承認されました。また、監事より会計監査結果についての報告がなされ承認されました。次に平成28年度の事業計画・予算案が事務局より提案され承認されました。

【スポーツフェスタ、新入生歓迎会の開催】

上記役員会の後、午後5時より本館ガレリア階銀座スエヒロにおいて新入生歓迎会が学科・満喜葉会の協賛、学術研究部の協力のもと行われました。

新入生歓迎会と同日に行われた「スポーツフェスタ2016」は、天候にも恵まれ、昨年同様、全競技がグラウンドで執り行われました(写真1)。本年も満喜葉会からスポーツフェス

夕時に着用するTシャツを全新生、教員に進呈していますが、今年は昨年より多少濃いめの「Navy blue」の生地にな(野牛?)のイラストを配ったTシャツをユニフォームとして着用して健闘しましたが、残念ながら「2連覇!」は達成できませんでした。

学科の近況

【卒業生および新入生】

本年3月25日、150名が動物資源科学科を卒業し、新たに満喜葉会正会員の仲間入りをしました。また、本年4月には148名の新入生を迎え、在籍者は4学年合計で606名(6月1日現在)となっています。本年度の1年生の男女比は、男子53名(35.3%)、女子97名(64.7%：過年度学生を含む)、全学年では男子35.8%、女子64.2%となり、今年度もまた学部内で最も在籍女子学生比率が高い学科となっています(女子学生比率が在籍者の50%を超えているのは当学科以外に獣医学科、食品ビジネス学科、食品生命学科の3学科)。

【学科人事について】

本年は退職、新規採用ともありませんでしたが、伴侶動物学研究室の福澤めぐみ助教が専任講師に、飼養学研究室の浅野早苗助手が助教に昇格されました。

本年度の研究室の配置と所属教員(19名)は以下の通りです。

動物組織機能学

(山室 裕 教授、園田 豊 専任講師、相澤 修 助手)

伴侶動物学

(甲斐 藏 教授、福澤めぐみ 専任講師)

ミルク科学

(増田哲也 教授、川井 泰 准教授)

動物育種学

(長嶺慶隆 教授)

動物生殖学

(大西 彰 教授)

野生動物学

(村田浩一 教授、岩佐真宏 准教授)

草地学

(丹羽美次 教授、佐伯真魚 准教授)

飼養学

(梶川 博 教授、浅野早苗 助教)

畜産経営学

(小林信一 教授)

畜産マーケティング

(小泉聖一 教授)

学科事務室

(須藤千絵 実習助手、神原サキ 実習助手)

(山室 裕)



2016年スポーツフェスタ



新入生歓迎会にて

いもづる会

食品ビジネス学科

連絡先：農村資源開発論研究室
0466-84-3408 事務局長 宮部 和幸
E-mail: miyabe@brs.nihon-u.ac.jp

幹事会(総会)・研究室活動報告会・懇親会を開催

6月4日(土)、幹事会(総会)・研究室活動報告会・懇親会が日本大学生物資源科学部で開催されました。幹事会(総会)では昨年度の活動報告・会計報告と、本年度の活動計画・予算案が承認されるとともに、在校生の就職活動に対する支援強化のための研究室単位でのOB・OGとの就職懇談会などの各種支援を行うことが決められました。幹事会后、学科主任の高橋先生から現在の本学科の取り巻く環境変化と現況についての報告が行われました。

昨年度から取り組んでおります「研究室活動報告会」を本年度も実施し、産業社会学研究室(川手ゼミ)、マーケティング研究室(木島ゼミ)、食コミュニティ論研究室(久保田ゼミ)の3つの研究室の所属学生たちが、様々なゼミや研究活動などを、スライドをまじえながらユニークに報告し、参加者の笑顔のなかで終えました。懇親会では、学部長、校友会分会長、名誉会員をご招待し、会員、教員、研究室活動報告をした学生ほか準会員(学生)を含め約80名で、本学科の学術研究会(Highers☆)の学生たちの料理を美味しくいただき、和やかに行われました。



懇親会：学術研究会(Highers☆)の学生たちの料理

食品ビジネス学科の近況

【新入生】

3月25日に157名の学生が卒業し、本年度は146名の新入生を迎えました。4月には新入生研修会を開催し、上級生から食品ビジネス学科の魅力や講義の受け方のプレゼン、ゼミ対抗クイズ等のイベントもあり、学生間での親睦を深めました。

5月には学部主催のスポーツフェスタが開催されました。新入生は、投票で一位になったデザインのお揃いのシャツを着て、学科一丸となって奮闘し、総合優勝、そして7月には新入生自らが優勝祝賀会を企画・運営し、新入生間の結束力はより一層高まりました。



スポーツフェスタ(撮影者：難波亜美)



優勝祝賀会

事務局より

【会員への各種案内方法の変更(お願い)】

近年のネット環境の充実やライフスタイルの変化に鑑み、会報や各種案内の従来の紙媒体での案内方法から、ホームページ等のネット媒体での案内方法に順次移行させていただいております。

現在、次の2つのコネクション方法を整備しております。ホームページやFacebookをチェックしていただくとともに、Facebookの友達の申請をお願いいたします。また、住所変更、幹事会や懇親会等の参加申込みなどを受け付けておりますので、多くの会員の皆様にご利用いただければ幸いです。

(1) いもづる会ホームページ

<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~imozuru/>
「いもづる会」で検索



(2) いもづる会 Facebook

(いもづる会 校友会)

<https://www.facebook.com/imozurukai/>

Facebookで友達申請をしてください。

(宮部 和幸)



懇親会

あすなる会

森林資源科学科

連絡先：森林植物・微生物学研究室
0466-84-3666 事務局長 鍛代 邦夫
E-mail：kitai@brs.nihon-u.ac.jp

平成 27 年度あすなる会 活動報告

【理事会】

平成 27 年 9 月 19 日、江ノ島に隣接する鵜沼海岸において「在学生（準会員）とともに集う地引綱大会」と同時に理事会を開催いたしました。参加者は在学生と会員を合わせて 70 名になり、例年になく大勢にお集まりいただきました。本年度は総会が開催されないため、本会で平成 26 年度の事業報告・決算報告・監査報告、及び平成 27 年度の事業計画・予算について討議され、承認されました。残念ながら当日は風が強く地引綱は中止になりましたが、代わりに海岸でバーベキューを行いました。

【熊本地震災害の会員被災者に対する対応】

平成 28 年 4 月に発生した熊本地震により被災された会員の方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。あすなる会では熊本県在住の会員の 17 名について被害状況を調査した結果、6 名の方が被災されていることが分かりました。この結果を受けて、緊急役員会を開催し、被災された会員にお見舞いすることとしました。7 月末時点で 6 名の会員に対しお見舞い金をお届けしました。

【第 5 期生同窓会開催】

平成 27 年 11 月 4 日、昭和 31 年に卒業された方々の同窓会が学部内で開催されました。卒業されて 60 年目の同窓会で 6 名の方々のご出席され、楽しいひと時を過ごされました。



平成 27 年 11 月 4 日の 5 期生による同窓会（小松武夫氏、和泉栄氏、辻悟氏、吉岡正弘氏、鈴木昭彦氏、高橋利見氏）

学科への支援事業

【卒業生による職業研究会】

森林・林業関連の仕事に従事している卒業生にお集まりいただき、これから就職活動を迎える 3 年生を対象に仕事内容や就職活動の経験談等のお話をしてもらう「卒業生による職業研究会」を学科と協力して開催いたしました。27 年度は 11 月 19 日に開催し、林業・住宅・建材・造園・建設系コンサルタント・環境系コンサルタント・法面土木・公務員等、多くの分野で活躍している卒業生 33 名に集まっていただきました。この職業研究会に参加して卒業生が務めている会社の話を聞き、その会社に就職を決めた学生はこれまでも数多くいます。

【授業・実践森林資源科学での支援】

2 年生の後期に開講している授業「実践森林資源科学」では森林・林業に関連する仕事をされている方々をお招きして、大学の授業や実習では教えられない現場の世界についてのお話をいただいています。この授業では学生たちに将来の仕事についてより具体的なイメージを持たせることを目的にしています。この講師として卒業生にも協力をしていただいています。27 年度は、東京都の林業家の田中惣次氏（15 期卒）、森林整備センター（旧森林開発公団）で長年にわたり水源林造成事業に従事された高橋利見氏（5 期卒、前述の同窓会に参加）、木材流通の仕事をしている石川広資氏（44 期卒）、造園の仕事をしている今村清敏氏・辻良太氏（58 期卒）に講義をしていただきました。

【卒業生・新入生への支援】

本年 3 月 25 日、卒業式が行われ、139 名が卒業しました。各研究室で最も成績の優秀な卒業生 9 名に「あすなる会会長賞」を授与しました。4 月には 144 名（男子 119 名、女子 25 名）の新入生を迎え新学期が始まりました。5 月には学科対抗のスポーツフェスタが行われ、12 学科中 4 位になりました。スポーツフェスタ用に 1 年生全員にお揃いの T シャツを提供しました。6 月に

は 1 年生全員参加の森林資源科学実習を日本大学軽井沢研修所で行い、森林資源科学の第一歩を元気にスタートしました。



卒業式でのあすなる会会長賞授与の様子



スポーツフェスタ、大縄跳びで頑張る 1 年生

【学会発表をした学生への支援】

平成 27 年度も前年度と同じく、学生による学会での研究発表件数は 27 件ありました。あすなる会では研究発表を行う学生の学会参加費の補助を行いました。こうした研究に打ち込み成果を上げることで、学生達は成長し学科レベルの向上にもつながると考えています。

学科の近況

【学生の就職状況】

平成 27 年度は 11 名が公務員試験に合格しました。その他、森林・林業職に関連して、砂防・治山関連の建設系コンサルタント、緑化・造園、木材流通、住宅建設分野などの職種に多くの卒業生が就きました。

【人事】

森林植物・微生物学研究室の阿部恭久教授が平成 28 年 3 月末に定年で退職されました。後任には平成 28 年 4 月より、森林総合研究所から太田祐子先生が教授として就任しました。

（阿部 和時）

桜水会

海洋生物資源科学科

連絡先：海洋生物生理学研究室
0466-84-3677 事務局長 朝比奈 潔
E-mail: asahina.kiyoshi@nihon-u.ac.jp

平成28年度桜水会 総会・懇親会を開催



総会・懇親会時の卒業生の集合写真

平成28年6月11日(土) 14:30より湘南キャンパス10号館において「平成28年度桜水会総会・代議員会・理事会」が、16:00より食堂棟3階NUBSホールにおいて「10年毎の同窓会・懇親会」が開催されました。「総会・代議員会・理事会」では、平成27年度の事業報告、決算報告、監査報告、平成28年度の事業計画案、予算案などが審議され、すべて承認されました。また、これまでの3年間事務局長を務められた小島隆人教授の後任に、朝比奈潔教授(任期3年間)が就任することが認められ、これに伴い事務局員の役割分担の変更も承認されました。新しい事務局の構成は以下の通りです。事務局長：朝比奈潔；学部校友会報担当：糸井史朗；会報担当：福島英登；会計担当：小糸智子；広報担当：牧口祐也；庶務担当：中井静子；総会・懇親会担当：井上菜穂子。

「10年毎の同窓会・懇親会」は、卒業後2年目(平成26年卒、63期)、10年目(同18年卒、55期)、20年目(同7年卒、45期)、30年目(昭和61年卒、35期)、40年目(同51年卒、25期)ならびに70歳以上の卒業生会員を中心に、学科教員および準会員である在学生も数十名参加して実施されました。



新事務局長
朝比奈 潔 教授

学科・準会員への支援

今年度の前期には、「海洋生物資源科

学概論」(1年次必修科目)の中で、将来就いてみたい職業を見出す職業研究の一環として、活躍する本学科卒業生の体験談などを講演していただきました。6月7日に長谷川勝治氏(20期、元焼津水産高校校長)、7月12日に横山大樹氏(59期、マルハニチロ(株))と野表秀生氏(47期、漁師)、7月19日に園原靖雄氏(51期、神奈川県立海洋科学高校)と尾崎(増澤)依氏(55期、本学部生命化学科)の計5名の卒業生に演者としてお越しいただきました。また、「特別講義」(3年次選択科目)では、本学科海洋生物資源応用コース(JABEE対応コース)の外部評価委員に委嘱されている尾崎之紀氏(37期、味の兵藤(株))、市橋 理氏(37期、アジア航測(株))、宮下一明氏(38期、(株)東京久栄)および長谷川勝治氏(20期、元焼津水産高校校長)の4名の会員に、技術者教育の一環として講演していただきました。このほか、1年次の必修科目である「海洋基礎実習I」への支援、スポーツフェスタ(学部運動会)の学科Tシャツ作製、学科広報用パンフレットの作成を支援しました。なお、学科広報用パンフレット内の学科イメージのイラストは、安齊 俊氏(55期、イラストレーター)にデザインしていただきました。今後、今年度中に在学生の学会参加費等の補助や卒業記念品の贈呈、卒論コンペ(塚本賞)の支援等を実施する予定です。

海洋生物資源科学科の近況

【新入生・在学生】

本年4月に159名(男子103名、女子56名)の新入生を迎え、現在622名(男子430名、女子192名)の学部生が在籍しています。また、4専攻に跨る大学院には、博士前期課程26名(男子17名、女子9名)、および博士後期課程4名(男子4名)が在籍しています。



鵜沼海岸でのオリエンテーション時の集合写真

現在の本学科カリキュラムも3年目を迎え、運用面でも軌道に乗つつあります。4月23日(土)に新入生オリエンテーション(「海洋基礎実習I」の一部)として、鵜沼海岸で地曳網を行い、その後新江ノ島水族館を見学しました。当日は、快晴の下、教員・新入生と一緒に網を曳きました。なお、鵜沼海岸での地曳網は、新カリキュラムが導入されて以降3年続けて実施することができました。

【学科教員の異動】

本年3月にこれまで4年間学科事務室で実習助手として勤務されていた福島翠さんが退任され、同年4月より後任として神谷知花さんが着任されました。



神谷 知花 実習助手

【訃報】

本年6月16日に吉原喜好先生が逝去されました。享年74歳でした。吉原先生が生前、下田沖での散骨を希望していたこともあり、8月6日に本学臨海実験所のある下田市において、ご遺族をはじめ、桜水会会員(含む卒業生)、学科教員、旧友の方々が参加して散骨式・偲ぶ会を実施しました。また、8月23日に成瀬宇平先生が逝去されました。享年81歳でした。謹んで先生方のご冥福をお祈り申し上げます。

桜水会事務局より

桜水会会員の皆様の近況や同期会等の活動のご様子を事務局までお知らせください。桜水会のホームページ(HP)は、海洋生物資源科学科HP(http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~kaiyo/wp/o-sui_description/)内に併設されております。同ウェブ上で連絡先等の変更手続きができますのでご活用ください。

(糸井 史朗)

工 学 会

生物環境工学科

連絡先：水資源環境工学研究室
0466-84-3693 事務局長 石川重雄
E-mail：sishika@brs.nihon-u.ac.jp

会員の動向

正会員数は、平成27年度卒業生146名を加え、平成28年3月現在7250名となりました。現役学生である準会員は、1年生163名(男131・女32)、2年生156名(男123・女33)、3年生151名(男109・女42)、4年生159名(男106・女53)で、合計629名(男469・女160)となっています。したがって、現役学生の男女比はほぼ3:1という状況で、ここ数年大きな変化はありません。

平成27年度総会・講演会 および懇親会の開催

平成27年11月21日(土)、平成27年度総会・講演会が生物資源科学部1号館にて行われました。総会では26年度事業報告および決算報告、27年度事業計画および予算案が承認されました。

恒例の講演会では、「アフリカ稲作の現状と課題 一耕耘機の普及について」と題して、平成元年卒で独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構(略称、農研機構)農村工学研究所農地基盤工学領域に勤務の成岡道男氏より講演をいただきました。同氏がこれまで関わってこられたアフリカ諸国、特にエチオピア、タンザニア、マダカスカル、ガーナについて、気象条件や栽培される作物の概要をはじめ、天水利用から灌漑の普及に伴い単位収量が飛躍的に伸びていること、そこで耕耘機の普及に取り組んだ体験談を交えながら、アフリカにおける稲作の現状と課題についてわかりやすく話をいただきました。非常に関心の高い内容で、多くの現役学生、会員および来賓の聴講者を集めました。

その後、午後4時より懇親会を食堂棟3階に会場を移し、41名の会員、

17名の来賓の参加者を集め、短時間ながらも情報交換と懇親に有意義な時間を過ごすことができました。



講演会(成岡道男氏)

学科教員の動向

平成27年12月13日付で河野英一教授が定年退職されました。これまで、平成22年10月から学部長に就かれ、大学本部では副学長兼学長代理代行の要職も兼務され、学部のみならず大学全体のためにご尽力されました。平成28年7月9日の学部校友会総会では、永年に亘る貢献に対し表彰されました。

平成28年度の昇格人事として、地球環境・資源リモートセンシング研究室の串田圭司先生が教授に、動物生態環境学研究室の三谷奈保先生が専任講師に、水資源環境工学研究室の山崎高洋先生が助教に昇格されました。今後ますます学生教育と研究などで活躍されることが期待されております。新任人事として、地球環境・資源リモートセンシング研究室に宮坂加里助手が着任されました。宮坂助手は慶応大学卒業後、東京大学大学院にて博士号を平成28年3月に取得されました。これにより、学科全体では、教員18名(教授7名、准教授6名、専任講師3名、助教1名、助手1名)、実習助手2名、合計20名の布陣で教育研究活動にあたっております。



宮坂加里助手

卒業記念品
(ゴム印付きボールペン)

スポーツフェスタ

学部スポーツフェスタ(運動会)が5月14日に開催され、当学科の1年生は晴天の中、奮闘してくれました。学科対抗競技では思うように上位とはいきませんでした。工学会からの支援によるTシャツを着用し協議に汗を流すことで同朋意識を高めるよい機会になりました。



スポーツフェスタの一コマ

準会員の支援

工学会では、準会員である現役学生の支援として、卒業記念品(ゴム印付きボールペン)の贈呈、卒業記念パーティ(謝恩会)開催に対する補助と、そこでの卒業生表彰(工学会長賞)を行っています。謝恩会は平成28年3月23日に横浜ロイヤルパークホテルで開催され、木村柊君、内藤義樹君、本間樹君の3名が表彰を受けました。さらに、2年生に対しては必修化された測量学実習Iで着用する実習服代金の一部補助も行っており、キャンパス内で感謝しつつ着用して実習に励んでおります。(笹田 勝寛)



測量学実習の光景



謝恩会での工学会長賞授与式の一コマ

FT会

食品生命学科

連絡先：食品分析学研究室
0466-84-3987 事務局長 千野 誠
E-mail: chino.makoto@nihon-u.ac.jp

FT会活動報告

【FT会理事会および総会の開催】

FT会理事会が平成28年4月9日に、総会は平成28年6月11日に本学湘南キャンパスにおいて開催されました。総会では平成27年度事業報告および会計収支決算が承認されました。さらに、平成28年度事業計画案および会計収支予算案に関しても承認されました。

【準会員（在学生）への活動】

FT会では、準会員の活動援助として、4年生へは、研究室対抗スポーツ大会懇親会の補助と卒業記念品の贈呈を行いました。4年生へ授与するFT会会長賞には、石川春佳さんが受賞されました。3年生へは、教員との懇親会へ飲食物の補助を、1年生へは、学部スポーツフェスタでの飲料水の提供を行いました。なお、スポーツフェスタは、総合6位という成績でしたが、応援賞を受賞しました。また、全学生に対して資格試験受験料の補助も例年どおり実施しました。



H28.5 フレッシュマンセミナー集合写真



H28.5 スポーツフェスタ集合写真

学科の近況

【学科人事】

○新任

平成28年度に食品生命学科では、新しく以下の4名の先生が着任されました。

河原井武人 専任講師（食品衛生学研究室、34期生）、大槻 崇 専任講師（食品分析学研究室、35期生）、京井大輔 助手（食品衛生学研究室、東京海洋大学出身）、小林りか 助手（食品創成科学研究室、東京海洋大学出身）

○退職

平成27年度に食品生命学科では、森永康 教授、鈴木公一 准教授と寺内友香 実習助手（先端食機能センター）が退職されました。森永先生は、総合研究所や先端食機能センターで所長として、大学の研究および教育にご尽力されました。とくに、「高機能性食品創出をめざしたN.FOODイノベーション拠点の構築と地域連携展開」の研究プロジェクトリーダーとして学科内外の研究者をまとめ、研究だけでなく、若手研究者の育成や社会貢献にもご尽力されました。鈴木先生は、「食品廃棄物の有効利用に関する研究」をもとに研究教育活動に励んでおりました。平成28年度は、「乳酸菌及びビフィズス菌の代謝特性に関する研究」（株式会社明治乳業受託研究）の研究者として研究室で活躍されておりますので、大学に来られた際には、研究室にお立ち寄りください。寺内さんは、食品科学工学科を卒業されたのち、先端食機能センターの設置とともに、センターの事務処理だけでなく、研究プロジェクトの推進に非常に貢献されてきました。現在、センターが機能的に運営されているのは、寺内さんのご尽力の賜物と考えます。退職された方のご健康と今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

事務局より

会員の方々に、住所変更や改姓などがございましたら、ぜひ事務局までお知らせ下さい。また、FT会のホームページ (<http://ftkai.net/>) から各種変更届を受け付けております。

(阿部 申)



H28.3 卒業式

拓友会

国際地域開発学科

連絡先：熱帯資源作物研究室
0466-84-3468 事務局長 倉内 伸幸
E-mail: kurauchi@brs.nihon-u.ac.jp

平成 28 年度幹事会および 総会の報告

平成 28 年 6 月 25 日、平成 28 年度拓友会幹事会および総会が開催されました。第 1 号議案として、平成 27 年度活動報告ならびに決算報告、第 2 号議案として、平成 28 年度事業計画案ならびに予算案、第 3 号議案として、創立 70 周年記念事業の件が審議され、事務局提出案が承認されました。

平成 27 年度拓友賞授与

平成 27 年度の拓友賞は、大場博貴さんが国際地域開発学科より推薦され、平成 28 年 3 月 25 日に実施された卒業証書伝達式の席上、内田会長より表彰状ならびに副賞が授与されました。

平成 28 年度 学科海外研修旅行開催

今年度の学科海外研修旅行は 8 月から 9 月にかけてフィリピンコース 14 名(時田先生、堤先生)、タイコース 11 名(溝辺先生、園江先生、田近実習助手) タンザニアコース 6 名(水野先生、加藤先生)が開催されました。3 つの海外研修を開催しているのは本



タンザニア研修



タイ研修

学科のみです。昨年に引き続き、コストリカコースも当初予定されていたのですが、ジカ熱の懸念があり今年度は開催を見合わせました。次年度以降に期待します。学生の海外研修志願者は多く、今後も本学科教育の目玉として続けて行く予定です。海外研修には、拓友会から補助金をいただき開催することができました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

国際地域開発特別推薦入試 二年目および N 方式入試導入

平成 27 年度入試より、本学科独自の推薦入試制度がスタートしました。この制度は、高校評定平均値が 3.5 以上で、英検二級、TOEIC500 点以上、TOEFL iBT40 点以上が出願要件となっており、特に英語能力を活かして海外で活躍できる人材を育成する試みです。また、日大本部が先行して実施している全学共通入試 N 方式に今年度から参加します。高校生からの注目度も高く、志願者増が期待されます。

活躍する拓友

青年海外協力隊派遣

平成 26 年卒

重吉倫太郎(フィジー：野菜栽培)

平成 25 年卒

斉藤雄介(ウガンダ：稲作)

平成 28 年 7 月に既卒の重吉倫太郎君が青年海外協力隊の野菜栽培で、フィジーに派遣されました。2 年間、健康に留意されて活躍してくれることを祈念いたします。また、昨年セネガルから帰国し、本学大学院在学中の斉藤雄介君が、本学部が青年海外協力隊事務局と交わした大学連携の 1 号としてウガンダに 12 月より派遣されます。任期は 1 年間です。

平成 27 年卒

加藤遼(ルワンダ：野菜栽培)**宮川継右(フィリピン：野菜栽培)**

昨年 6 月から派遣中の 2 名の OB は活動 2 年目に入りました。ルワンダで活躍中の加藤遼君のもとには、9 月に 2 年生 2 名が訪問し現地研修をする予定です。

平成 26 年卒

内野隆子(ベナン：野菜栽培)

平成 17 年卒

敦賀忠典(ベナン：野菜栽培)**川名亮(ガボン：野菜栽培)**

3 名の OB・OG が 2 年間の活動を終えて帰国しました。今後の活躍を期待します。

教員の動向

20 年以上インドネシア語を担当された藤田泰伸先生と林幸博先生が、平成 28 年 3 月 31 日に定年退職されました。平成 28 年 4 月 1 日付で麻生久美子先生と加藤太先生が専任講師に昇格されました。おめでとうございます。



藤田 泰伸先生



林 幸博先生

在校生の近況

平成 28 年 7 月 1 日現在、1 年生 151 名、2 年生 152 名、3 年生 172 名、4 年生 157 名の合計 632 名(うち男子 425 名、女子 207 名)が在籍しています。

70 周年記念パーティー開催予定

平成 29 年 3 月 4 日正午より、本学部食堂棟 3 階で拓友会創設 70 周年記念パーティーを開催する予定です。参加等問い合わせは拓友会事務局にお願いします

拓友会事務局より

拓友会ホームページ <http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~takuyu/takuyu/toppupeji.html> をご覧下さい。また、会員各位の近況や同期会などの活動の様子もお知らせ下さい。住所変更もホームページから行えます。

(倉内 伸幸)

応用生物科学科校友会

応用生物科学科

連絡先：生体分子学研究室
0466-84-3353 事務局長 明石 智義
E-mail: akashi.tomoyoshi@nihon-u.ac.jp

学科の近況

【在学生と卒業生】

応用生物科学科の在籍学生数は580名、学年別では1年生145名(男80名、女65名)、2年生139名(男65名、女74名)、3年生160名(男94名、女66名)、4年生136名(男76名、女60名)となっています。昨年度は130名(男78名、女52名)の学生が卒業し、社会に巣立っていきました。卒業生のご活躍を期待します。

【新カリキュラム】

カリキュラムを改正して3年目となりました。学生実験はこれまで研究室単位で行っていたものを変更し、動物分野、植物分野、微生物分野に分けて1年次後期から3年次前期まで行うことになりました。研究室配属は3年次の後期からになり、卒業までに応用生物科学演習、ゼミナール、卒業研究の単位を取得することになりました。研究室への配属は、これまで学生間の話合いにより決めていましたが、平成28年度から就職活動に似た形式(教員と学生が面接をして、教員側が受け入れるか否かの判断をする)に変わりました。また2年次の「特別講義Ⅰ」では、学生の将来と就職についての意識を高めてもらう為、各分野で活躍されている学科の卒業生(8名)に来て頂き業界の現状と将来についてオムニバス形式で講義をして頂きました。3年次の「特別講義Ⅱ」では応用生物科学科で学ぶ意義などについてアクティブラーニング形式で講義を行っています。



特別講義Ⅱの授業風景



応用生物科学実験Ⅱ(微生物分野の実験)

学科教員の動きと研究室体制

平成28年3月に生理機能科学研究室の池田和正准教授が退職されました。平成28年4月には、生命工学研究室の高野英晃先生が准教授に、動物生体機構学研究室の沖嘉尚先生が助教に昇格されました。両先生には今後さらなるご自身の研究の発展に加え、学生の教育へのお力添えをお願い致します。

教員の異動に伴い、研究室の体制が変更になりました。

核酸・蛋白質科学研究室

(司馬肇教授、舩廣善和准教授、新井直人専任講師)

生命工学研究室

(上田賢志教授、高野英晃准教授、西山辰也助手)

分子微生物学研究室

(砂入道夫教授、岩淵範之准教授)

植物細胞学研究室

(内山寛教授、土屋徳司専任講師)

生体分子学研究室

(青木俊夫教授、明石智義准教授)

動物生体機構学研究室

(加野浩一郎教授、沖嘉尚助教)

細胞機能調節学研究室

(花澤重正教授、高橋恭子准教授)

生理機能科学研究室

(苫名充准教授)

学科事務室

(太田早紀実習助手、吉田麻友実習助手)

学科への支援事業

応用生物科学科校友会では準会員へ向けて、新入生歓迎会、スポーツフェスタ、オープンキャンパス、卒業記念品などの支援を行っています。

平成28年4月に、新入生の相互交流や教職員とのコミュニケーションを図る目的で、新入生歓迎会を行いました。学科の教職員と100名以上の

新入生が参加しました。皆、楽しく懇談し親睦を深めていました。ボランティアの4年生や大学院生も参加し、講義や学生実験、さらに研究室の様子などを紹介していました。同じく5月にはスポーツフェスタが開催され、学生、教員ともに統一されたTシャツを着て競技や応援を行いました。



スポーツフェスタ

本年度もオープンキャンパスが開催されました。上田賢志教授による模擬講義が行われました(ノーベル賞と微生物～発酵の謎に導かれた生化学～、～放線菌が開いた近代医療～)。研究室の展示では、学生、大学院生、教員が研究内容をわかりやすく紹介し、さらに模擬実験等も開催されたいへん好評でした。



オープンキャンパス

訃報

平成28年7月11日に名取正彦 名誉教授(蛋白質科学研究室)がご逝去されました。先生は教育・研究活動にご尽力されるとともに、学科の発展に大きな貢献をされました。ご冥福をお祈り申し上げます。

事務局より

学科校友会総会を平成29年3月に開催予定です。

事務局では会員の皆様からのご意見、ご要望、ご提案をお待ち致しています。ご一報下さいますよう、お願い致します。(明石 智義)

短期大学部湘南校友会

短期大学部生物資源学科

連絡先：生物資源科学部 諸課程研究室①
0466-84-3749 事務局長 蒲原義明
E-mail: kamohara.yoshiaki@nihon-u.ac.jp

平成28年度総会・懇親会の開催

平成28年6月25日(土)16時より湘南校舎新1号館5階155教室にて平成28年度短期大学部湘南校友会総会が開催されました。役員の変更・追加・変更、会則の改正につき、平成27年度事業報告・決算報告、監査報告などが承認され平成28年度の事業計画案、予算案が決定され、最後に今後も校友会を継続させることが了承されました。

【懇親会の開催】

上記総会后、17時より湘南校舎本館地下一階スエヒロにて懇親会が開催されました。滝沢章会長の挨拶に続き、来賓の生物資源科学部校友会内田俊太郎会長、生物資源科学部を代表して腰岡政二先生からご挨拶をいただきました。生物資源学科の各校友会分会の皆様方にも参加いただきました。現職の先生方はもちろんのこと、ご退職された青山友雄先生、大川いづみ先生も来てくださいました。終始和やかな雰囲気の中でのパーティとなりました。



学位授与式の様子

学科の近況

短期大学部生物資源学科は平成26年度入学生を最後に学生募集が停止され、平成28年3月149名の卒業生を最後にその幕を閉じることとなりました。昭和25年設立された本学科の前身である農業科から数えて60有余年の歴史が閉じられた事になります。募集停止以降も教員が一丸となり編入学、就職など一人一人のニーズに合わせたサポートを行い、全員を送り出すことが出来ました。

【卒業生】

平成28年3月25日に149名が無事卒業しました。日本武道館で卒業式、湘南校舎で卒業式及び学位伝達式が執り行われました。翌日には卒業パーティが横浜ロイヤルパークホテルにて華やかに行われました。卒業後の進路は、生物資源科学部への編入96名(三年次編入:83名、二年次編入:13名)、他学部・他大学への編入10名、専門学校12名、就職17名、その他はアルバイト・家事手伝い・就職活動中などでした。他大学・他学部への編入は茨城大学、東京農業大学、恵泉女学園大学、日本大学国際関係学部、日本大学文理学部など、就職先はイース自動車株式会社、平塚信用金庫、防衛省海上自衛隊、株式会社京王ストア、などが



卒業パーティ 歓談の様子

挙げられます。

【学科教員動向】

平成28年3月で実習助手の林里紀さんがご退職されました。長きにわたり、縁の下の力持ちとして校友会の事務をご担当いただき、感謝しております。新たな職場でもご活躍なさることをお祈りします。また平成28年4月に蒲原義明先生と志澤泰彦先生が生物資源科学部諸課程(諸課程研究室①、諸課程研究室③)へ、松橋明宏先生、山内綾子先生が生物資源科学部一般教養(体育③研究室、英語⑨研究室)へ異動されました。

事務局より

湘南校友会のHPが開設されました。URLは<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~shonan/>です。または日本大学生物資源科学部校友会のHP『分会・支部一覧』のページからジャンプできます。是非一度ご覧ください。会員の方々に住所変更や改姓がございましたら、HPより変更手続きを行ってください。なお、ウェブページから住所を変更され、その後事務局から連絡が来ていない場合、大変お手数ですがウェブページから再度変更手続きをして頂きたく存じます。宜しくお願いします。また同期会の開催などがありましたら、事務局までご一報ください。

(山内 綾子)



懇親会 多くのご退職された先生方がご参加くださいました。



懇親会の様子

支部だより

宮城県支部の近況

連絡先 〒981-3131 仙台市泉区七北田字町 31
小野 隆 事務所内 支部長 小野 隆
TEL.022-372-4637 FAX.022-374-8844
E-mail : ono.takashi@almond.ocn.ne.jp

■ 6.30 緊急役員会・夏越会

学部校友会会報発行日繰上げに伴う会報第69号記事、会計年度変更、研修会・総会・懇親会日程調整等協議。28年仙山交流会概要説明

■ 支部長、役員より会員勧誘のご挨拶



支部長(中央) 出席役員

同窓の誼を結びましょう
卒業の方をご紹介下さい

正会員 卒業生
準会員 在校生 ※大歓迎
賛助会員 ご協力者

■ 年会費 2000 円

* 準会員* 賛助会員は免除

■ 平成 28 年の主な会議・行事等日程

- * 1.27 「県」校友会新年名刺交換会: 仙台市
- * 2.20 山形県支部総会・懇親会: 山形市
- * 4.17 白石川堤一目千本桜観桜会: 船岡町
- * 7. 9 学部校友会総会・懇親会: 藤沢市
- * 7.27 「県」校友会研修会総会懇親会: 仙台市
- * 8.21 28年度研修会・総会懇親会: 仙台市
- * 8.27 仙山交流会: 山形で温泉蕎麦打地酒
- * 9.25 全日本大学女子(杜の都) 駅伝出場時は TV 全国放送全区間 18 地点で県校友会全学部あげ横断幕・応援旗にて選手鼓舞道沿応援

■ 会員の状況(平成 28 年現在 46 名)
※卒業生・富嶽会 2 名・紫友会 1 名・角笛会 2 名・満喜葉会 6 名・いもずる会 5 名・あすなろ会 5 名・桜水会 5 名・工学会 9 名・FT 会 6 名・拓友会 3 名・むつあい会 1 名・賛助会員: 提携校・東北高等学校

(事務局長 櫻田 昇)

山形県支部の近況

連絡先 〒990-2433 山形市鳥居が丘 4-55
日本大学山形高等学校 小嶋 佑治
TEL.023-641-6631 FAX.023-641-6634
E-mail : kozima.yuji@nihon-u.ac.jp

山形県支部総会・懇親会を平成 28 年 3 月 5 日「山形国際ホテル」にて開催し県内に幅広くいる会員以外に、多数の来賓方々にもご臨席いただきました。総会終了後、記念講演会に移り講師に本学部准教授川井泰先生を迎え「乳酸菌と発酵乳製品～ヨーグルト、チーズを中心として～」と題して講演をいただき、興味深い内容に一同うなずいていました。また、本学部校友会副会長山本捷氏より「大学・校友会の近況について」お話をいただきました。引き続き山本氏より長きにわたり本支部運営の発展にご尽力いただいた池田卓郎副支部長に感謝状が授与されました。その後懇親会に移り、恒例になっている学科ごとの「自己紹介と近況報告」があり、さらに親交を深める会を開くことができました。本県の日本大学校友会は学部ごとに校友会支部があり、法学・文理・経済・商・芸術・国際関係・工科系(理工、生産、工)・医・歯(歯、松戸歯)・生物資源・薬・通信教育の 12 支部、そして桜師会がそれぞれ総会を開き活動をしています。加えて毎年 7 月上旬に日本大学校友会山形県支部総会があり会員相互の親睦を深めています。

(山形県支部 事務局長 齊藤 広樹)



川井泰准教授の記念講演



山形県支部 第 24 回 総会写真

高知県支部の近況

連絡先 〒785-0610 高知県高岡郡梶原町梶原 1173-2
高知県支部事務局 來米 豊史
TEL.0889-65-0818
E-mail : kurume@flute.ocn.ne.jp

今年も宮尾登美子原作「陽暉楼」の舞台となりました。料亭得月楼で第 28 回高知県支部総会を開催しました。

総会には会員 20 名、内会員のご子息で将来の日本大生を目指して頂く高校生 2 名そして内田俊太郎校友会会長のご臨席を頂き、ご挨拶及び支部活動費の授与を頂きました。

今の高知県の高校生の進学状況として関東方面を希望する生徒は非常に少なく、多くは関西、四国内で、あまり親元から遠くに行かない傾向にあるようです。

支部会も新しい会員、現役の学生にも参加を呼びかけるべく情報収集しておりますが、個人情報保護法の壁で思うようにいかないといったところです。

ともあれ総会は無事終了、懇親会には生物資源学部の大矢祐治学部長もご臨席、ご挨拶頂きました。



べく杯

前回もご紹介したべく杯でのお座敷遊びですが、お囃子にのり「べろべろの～神様は～正直な神様よ～男前(お題は色々)の方におもむきやれ～おもむきやれ～」とコマの指した人は男前と神様に指名された訳で、神様には逆らえません、指定された杯で一気に飲み干すのです。

といった余興でも盛り上がり、最後は校歌合唱、岡林支部副会長と前支部長森田様の応援エールで一次会は終了、2 次会にも多数参加で大いに親睦を深める事ができました。

前川支部長にもべろべろの神様は降臨され、そのうちいつかべろべろの神様に昇華されるのではないかと少し心配しつつ、晩夏とはいえまだまだ暑い土佐の夜はふけていきました。

(高知県支部事務局長 來米 豊史)



懇親会風景



高知県支部集合写真

神奈川県支部の近況

連絡先
〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866
日本大学生物資源科学部 神奈川県支部事務局
事務局長 百瀬 博文 Tel.0466-84-3393
E-mail: momose@brs.nihon-u.ac.jp

神奈川県支部では、6月4日に開催された平成28年度総会の議決を経て、役員人事を一部刷新・増強し、以下の通りとなりましたのでお知らせします(敬称略)。支部長:小牧 弘、副支部長:佐々木 透、矢口友康、中島慎一、稗貫 峻(新任)、会計:増田哲也(新任、会則の変更によるもの)、会計監査:相澤 實、矢澤好幸(新任)、鈴木重則(新任)、事務局長:百瀬博文。また、会則を変更し、理事の呼称を幹事に、会員資格を正会員(従来の特別会員はこちら)と準会員(学生会員)に二元

化しました。詳しくはホームページをご覧ください。

神奈川県支部は、これまで同様毎週月曜日に有志が集い、20種類もの野菜栽培を行い、タマネギ、ジャガイモ、蕎麦粉、蜂蜜に至っては販売するほどの生産を上げています。その他、有志による横浜港クルージング(7月)、新蕎麦試食会(12月)、箱根駅伝の応援を兼ねた新年会(1月)など、多彩な活動で親睦を深めています。支部活動の様子は随時ホームページで紹介しています(<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~anikoyu/main.htm>)。

学部生・院生・教職員の方々は何方でも入会可能で校友会活動を楽しむことができます。皆様方の多数のご参加をお待ちしています。不明点は事務局

までお問い合わせください。



崎陽軒本店(横浜)で行われた総会懇親会にて



一坪農園でのレタス植え付け作業

校友会からのお知らせ

1 平成27年度卒業生及び平成28年度新入生について

平成27年度の卒業生は、大学1,589人、短期大学149人及び大学院98人で合計1,836人でした。この結果、卒業者数は101,263人となり10万人を超えました。平成28年度の新入生は、大学1,734人及び大学院105人で合計1,839人でした。この結果、平成28年4月1日現在の生物資源科学部の学生数は、大学7,220人及び大学院204人で学生総数は、7,424人となっております。なお、学生総数に占める女子学生の割合は、44.2%(3,284人)です。

2 平成28年度藤桜(学部)祭について

平成28年度の藤桜祭は、10月30日(土)から11月1日(月)までの3日間学部内で開催されます。

校友会では、休憩の場とし事務局会議室(2号館2階)に「OB・OGの部屋」を準備いたしますので、校友の皆さんのご来場をお待ちしております。

3 平成29年度の通常総会及び懇親会の開催について

(1) 通常総会

日時 平成29年7月8日(土) 午後2時から
場所 日本大学生物資源科学部 NUホールA

(2) 懇親会

日時 平成29年7月8日(土) 午後4時から

場所 日本大学生物資源科学部 食堂棟3階
なお、時間、場所等は変更することがありますので、予めご了承願います。

4 ホームカミングデーの開催について

校友会は、ホームカミングデーを学部と共同で平成29年度に開催すべく現在検討中です。開催日程等の詳細は、具体的になり次第ホームページでお知らせします。

◎ 本会報に関するお問合せは、校友会事務局までお願いします。

(1) 住 所: 〒252-0880

神奈川県藤沢市亀井野 1866

(2) T E L : 0466-84-3799

(3) F A X : 0466-84-3531

(4) E-mail: koyukai@brs.nihon-u.ac.jp

(宮島 吉夫、熊澤 恵美子)

日本大学生物資源科学部校友会 役員名簿

(平成28年4月1日現在)

名誉会長 大矢 祐治	幹 事 長 谷川 清	幹 事 鍛代 邦夫	あすなる会・森林	幹 事 今泉 隆次郎	応用生物校友会
会長 内田 俊太郎	副会長 原 淳	副会長 橋ヶ迫 覚	桜水会・海洋	監 査 役 明石 智義	応用生物校友会
幹事 津曲 茂久	副幹事 中川 秀樹	加部 都夫	桜水会・海洋	監 査 役 有賀 豊彦	紫友会・生化
副会長 浜野 光年	副幹事 鎌田 寛	黒澤 慶司	桜水会・海洋	副 長 渡部 敏	角笛会・獣医
山本 捷	副幹事 森友 忠昭	酒川 和男	工学部・環工	副 長 木島 実	いもづる会・食ビ
横川 屹	副幹事 小杉 幸彦	福田 澄雄	工学部・環工	事務局長 宮島 吉夫	あすなる会・森林
具由 F T 会・食生	副幹事 小泉 聖一	石川 重雄	工学部・環工	事務員 熊澤 恵美子	
近藤 明宏	副幹事 藤井 正気	栢 英彦	F T 会・食生		
副 長 島 武志	副幹事 宮部 和幸	千野 誠	F T 会・食生		
佐々木 透	副幹事 宮島 吉夫	小谷田 操	拓友会・国際		
岩野 秀俊	副幹事 東郷 聖史	倉内 伸幸	拓友会・国際		

会報編集委員名簿

富 嶽 会 窪 田 聡	いもづる会 宮部 和幸	F T 会 阿部 申
紫友会 赤尾 真	あすなる会 阿部 和時	拓友会 倉内 伸幸
角笛会 岡林 堅	桜水会 糸井 史朗	応用生物学科校友会 明石 智義
満喜葉会 山室 裕	工学部 笹田 勝寛	湘南校友会 山内 綾子

※表紙の写真は学部写真発見隊(写真サークル)の提供です。

発行所

日本大学生物資源科学部 校友会 〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866

TEL:0466-84-3799 FAX:0466-84-3531 E-mail:koyukai@brs.nihon-u.ac.jp

印刷所:(株)デイ・エム・ピー 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町561 TEL:03-5292-6800(代) FAX:03-5292-6871